

2008年度第5回L-ラーニング学習支援システム研究分科会記録

日時：2008年10月17日(金) 13:00-17:40

場所：早稲田大学 中央図書館

出席者：阿部(東京歯科大学) 金子(早稲田大学) 田代(日本女子大学)
南雲(国際大学) 小田切(麻布大学・記録)

配布物：タイムテーブル、機関リポジトリに関するアンケート集計結果
私立大学機関リポジトリアンケート調査、中間報告スライド敲击台

1. 事務連絡

阿部氏より、助成金が交付されたことと、11月14日(金)に交流会が開催されることが報告された。

2. アンケート結果分析

設問 ~ については、「(機関リポジトリの)運用予定が無い」と回答した館が124館と多かった点を中心に、検討を行った。

- ✓ 私立大学に機関リポジトリを広めていくためには、その意義と目的、あるいはメリットなどを含め「なぜやるのか」について、明確に説明が出来なくてはならない。(浸透を図らなくてはならない段階)
- ✓ 今回はこういう結果になったが、大学基準協会の自己点検評価基準に採り上げられた¹⁾ことを考えると、今後急速に増加する可能性があるのではないか。

「A 賛同するので登録したい」の回答について

- ✓ 「情報交換になる」「他の図書館の事例を参考にしたい」への回答が多かった点については、サンプル集の様な業務用ツールが使われる事例が多いと思われるが、それでは体系的学習につながらない
- ✓ 研修資料に利用したいという回答が多かった点は、当分科会にとっては良い傾向である。他部署への人の流出によって、研修そのものが成り立たないという背景がある。研究成果というよりも、図書館のアピールあるいは大学としてのアピールが本当のところではないか。
- ✓ 回答館からの登録が現時点では1件もない。どうしたら登録してもらえるのか？
- ✓ 閲覧にもID/PWを与えた方が良かったのか？ それではリポジトリにならない。

「B 賛同できるが登録できない」の回答について

- ✓ 「登録・公開出来るようなものがない」への回答が66件と断然多い結果となることは予想しなかった。

1) 大学基準協会 『大学評価ハンドブック』(資料4-2)

(http://www.juaa.or.jp/images/accreditation/pdf/handbook/university/2008/shiryuu_04_2.doc)の「11 図書・電子媒体等」の「情報インフラ」に関する評価の視点として「学術資料の記録・保管のための配慮の適切性」が示されている。

“図書館ネットワーク等を利用した学術情報の広域的な活用促進のための方途を講ずることも必要である。また、社会への学術研究の情報提供のため、大学博物館、研究成果の展示室等の学術情報発信施設を整備することが望ましい。”

- ✓ 学術論文を載せるリポジトリと思った人が多かったのではないかと？ リポジトリの名称がまずかったか？
- ✓ 回答者は管理職なのか、それが影響しているのか？
- ✓ セルフアーカイブではなく、こちらが必要とするコンテンツに対して著者に交渉していく方法が良いのではないかと。

以上の意見交換を行い、「0 賛同できない」が0件ではなかったにしろ、全体として否定的な意見は少なく、リポジトリについては、やる方向で間違いはなかったことを確認した。

3. 中間報告準備

全体の構成を確認し、5分の発表の中で次の点を中心に展開する流れを纏めた。

- ・リポジトリへと進んできた目的と動機の説明
- ・アンケート集計・分析は、関連性のある登録コンテンツの紹介へと繋げる。
- ・今後の登録推進へと繋がる内容にする。
- ・各分科会の成果物の登録を呼びかける。

4. 今後のシステム構築について

プッシュ型学習支援システム

- ✓ リポジトリを利用した学習支援システムの方向性について検討し、リポジトリを利用することで、従来のプル型システムからプッシュ型システムへの転換がはかれるのではないかとという点に着目し、ブログとリポジトリの連携システムとして試験運用を進めていくこととなった。具体案としては、次のとおり。
 - ◇ リポジトリにあるコンテンツを題材とした、図書館員向けのブログ
 - ◇ 試験的に運用を開始し分科会メンバーに配信する。
 - ◇ 自分が学習したいものについてキーワード登録して新着アラートができるとうい。（登録数が少ない現状では効果が無い）

リポジトリそのものを学習ツールに

- ✓ 構築の履歴を載せてもそれだけで学習になる。
- ✓ リポジトリ体験学習としての機能もあるのではないかと。

5. 図書館見学

6. 次回日程

12月又は1月開催を予定し、調整する

以上